

会長就任にあたって

日本微生物資源学会会長
鈴木健一郎



本年度の総会において当学会の会長を拝命いたしました。ここに会員の皆様にご挨拶を申し上げます。歴史ある日本微生物資源学会、JSCCの発展に少しでも貢献できればと思っております。JSCCの前身、日本微生物保存機関連盟は1951年に発足しましたので、2011年で60周年を迎えます。今ではいろいろな国や地域に同様の微生物保存機関のネットワークがありますが、JSCCはその中でももっとも古い組織の一つであるといえます。JSCCは加盟機関の統合微生物株カタログの出版、微生物関連学会との共催シンポジウムの開催などを通じて、日本の研究コミュニティにおける微生物株保存事業の普及と地位の向上に努め、利用環境の整備を推進してきました。その間、世界微生物株保存会議 International Congress for Culture Collections を、1968年の第1回と、2004年の第10回の2回にわたって成功させ、またアジアにおける当分野の専門家のための人材育成のための UNESCO ワークショップを開催するなど、国際的な活動も行ってきました。国内では、学会として国家的微生物保存機関の必要を訴える提言をまとめて日本学術会議に提出し、理化学研究所のJCMや製品評価技術基盤機構のNBRCなどの設立として実を結んできました。これからは、これらの先人たちの構築した基盤を維持、発展させ、JSCCを国内と世界をつなぐ微生物研究ネットワークのハブとして機能させていかなければならないと考えています。

生物資源は人類の共通の財産であるという認識のもとで、カルチャーコレクションは学術的な研究基盤と位置づけられてきました。しかし、近年では自然界からの微生物の採集や分離に対する生物多様性条約および関連法による規制のほか、バイオテロリズム対策として改正された感染症法、特許寄託制度をはじめとする知的財産権を考慮した取り扱いなど、生物資源を取り巻く環境は多様化が進み、自然科学分野だけの問題ではなくなっています。そのような社会の変化の中で、日本の研究者が国際競争に遅れることなく、いち早く研究に必要な資源を取得し、活用できるような環境を整備することが当学会の使命の一つであると考えます。

また、生命科学では膨大なゲノム情報が扱われるようになり、その利用のためには高品質の微生物材料の保存・提供と遺伝子情報などのデータベースとの高度な連携が要求されてきており、JSCCの役割は拡大しているといえるでしょう。

JSCCには長い歴史がありますが、ここであらためて現在の組織としての体制、やるべき事業などを原点に戻って考え直したいと考えています。学会活動の核となっている会員の中で、特にJSCCの特徴である機関会員について、その資格を再検討し、幅広く新しい微生物資源の活用に向けていきたいと考えております。理事会には、微生物の取扱い経験の豊富な優れた専門家が各分野から参加しています。その専門性とネットワークを生かし、異分野間の交流を進めたいと考えています。JSCCは研究成果を発表するだけの場ではなく、微生物材料を取り巻くあらゆる問題に取り組み、日本の微生物学研究的基盤として貢献できることを目指していきたいと考えています。学会誌“Microbiology and Culture Collections”の充実、ホームページを利用した会員内外への積極的な情報発信を進めていきたいと考えています。

会員の皆様もさまざまな形、目的で微生物と接しておられると思います。それぞれのお立場から微生物の入手や利用環境についてご意見をいただき、皆様とともにJSCCの活動が日本の微生物研究に有益であるように発展させていきたいと思ひます。遠慮なくご意見、ご提案をお寄せくださいますようよろしくお願ひいたします。